本校舎高等部　「進路実現に向けた支援のあり方について」
～作業学習、自立活動の授業づくりを通して～

1　テーマ設定の理由

本校舎高等部では、本校舎中学部や近隣中学校から進学してきた生徒 77 名が、３障がい種４教育課程に分かれて在籍し学習している。生徒の実態は多様であり、教師が個々のニーズに寄り沿う形で教育活動を行っている。

今回の全体研究テーマ「４障がいに対応した学校としての授業づくり～学部課題への取り組みを通して～」を推進するに当たり、学部として挙げた課題は「希望進路の実現」である。就労や進学を目指す生徒に対し、高等部は、支援学校の出口としての役割を大きく担っているからである。

生徒の進路実現に向けては、本校のキャリア教育全体計画６項目について高等部段階の目標を設定し、学習活動を展開している。目標達成のためには、一つ一つの有効な支援方法を検証し、系統立て、高等部として統一感のある指導を行う必要がある。

また、生徒が希望進路を実現させるために身に付けるべき力として、基本的な知識・技能とともに「思考力・判断力・表現力」が挙げられる。これらは、授業での達成感を重ねて培われるものと考える。

以上のことから、授業の中で「生徒自身がわかった・できたと思えるような支援」を目指し、本テーマにより研究を進めていくこととした。

2　研究方針

（１）病弱・肢体不自由通常学級：自立活動をベースとした授業改善
　（以下、自立活動グループと表記）
　〈１年次〉集団参加と自己理解を促す、自立活動の授業研究と実践。
　〈２年次〉自立活動の目標をベースとし、研究対象を各教科に広げて授業改善に取り組む。

（２）知的・重複学級：作業学習における適切な支援と系統性の検証
　（以下、作業学習グループと表記）
　〈１年次〉作業班ごとに、作業種目について検証し指導の根拠を明らかにする。
　〈２年次〉支援の妥当性を検証し、全班の系統性を確認する。

3　研究経過・内容

	自立活動グループ	作業学習グループ
H30　６月 学部研究①	１年次の方向性、研究課題決定	
７月　②	テーマ、内容確認、授業計画	作業班ごとの実践の振り返り、課題
９月　③	研究授業 授業研究会	実践事例検討 （農耕、環境、木工）
10 月　④	授業研まとめ（成果と課題の確認） 対象生徒の変容について①	実践事例検討（陶芸・リサイクル） 各作業班指標表についての検討①
11 月　⑤	対象生徒の変容について② 研究のまとめ	実践事例検討（縫製・調理） 各作業班指標表についての検討②
12 月　⑥	まとめ	
R1　５月 学部研究①	２年次の計画	

6月　②	研究の内容、方向性を確認、各教科での取り組み	⑴全体計画見直し ⑵班ごとの取り組み 実践事例検討（授業研：調理班）
7月　③	協議「アクティブラーニング」 指導略案で検討	⑴、⑵ 実践事例検討（授業研：木工班）
9月　④	各教科の指導略案で検討	⑵進捗状況を資料で共有 ⑴全体計画と作業日誌様式の検討
10月　⑤	各教科の指導略案で検討	⑴、⑵ ⑶系統性確認、教師の班間交流
11月　⑥	まとめ	実践内容の確認
12月　⑦	高等部まとめ⑴　　グループ間の成果共有	
R2　1月　⑧	高等部まとめ⑵　　２年間のまとめ	
2月　⑨	来年度研究について	

4　研究実践

（１）自立活動グループ

普通教育に準ずる教育課程の中で、「自立活動」の授業は、生徒たちにとって意義深い時間である。1年次は、A組でこれまで培ってきた生徒と教師の関係性の上に立ち、集団参加の難しい生徒も見通しをもって活動できる授業づくりを研究・実践した。そのうち、自立活動に防災教育を絡めた授業を取り上げ、災害への備えを考える中で自己理解を促す支援について検討した。

この成果を受け、2年目は、限定的な場での自己理解を生活全般に応用させるべく、研究対象を各教科に広げ、有効な支援方法について横断的に検討した。

〈１年次〉安心して参加できる授業の中で生徒の自己理解を促す。

ア　授業研究テーマ「主体的に自分の身を守るために～防災学習から学ぶ～」
（自立学習×防災教育）

イ　目標

①東日本大震災の被災地について学習し、併せて復興の状況を知ることができる。

②学習を通して自己理解を深め、必要な支援を周囲に求めることができる。（本授業では主として車椅子使用の生徒を対象とする）

ウ　指導の経過

第１次：8.30	防災学習オリエンテーション（１ｈ） 東日本大震災のこと“そのときあなたは”		
第２次：9.13	先人に学ぶ	（１ｈ）	先生の体験談を聴く
第３次：9.26	校外学習事前学習	（１ｈ）	校外学習事前アンケート
第４次：9.27	復興の様子を知ろう	（７ｈ）	校外学習（陸前高田市）
第５次：9.28	ふりかえりとまとめ	（１ｈ）	研究授業

エ　成果○と課題●（抜粋）

○通常の学習集団（頼りの保護者がいない環境）で校外学習を行ったことにより、対象生徒が自ら介助を依頼する場面を作り出すことができた。

○まとめの授業の展開の中で、対象生徒からの危機感を表現する発言と、周囲の気付きを引き出した。

●対象生徒自身が普段から危険や不便を感じる場面がないこと、困難に対する想像力があまり働かないことから、災害に備える意識がなかなか発現しない。防災袋の準備も未だ行われていない。引き続き本人・保護者の防災意識を喚起し、今ある力でできる限りの安全確保をさせたい。

〈２年次〉自立活動の目標をベースとし、研究対象を各教科に広げて授業改善に取り組む。

ア　生徒の実態把握と【主体的・対話的で深い学び】【アクティブラーニング】の捉えを確認

【主体的な学び】自分の意志・判断によって自己を認識し修正し相対化することができるようになること。

【対話的な学び】教室の中の他者との対話によって、自己相対化を図り自己認識すること。

【深い学び】「主体的な学び」と「対話的な学び」の過程を通して、それぞれの教科ごとの見方や考え方を働かせて、今ある自分をメタ認知すること。更に、そこから身に付けた資質と能力の３つの学びを将来に広げること。

【アクティブラーニング】(以下ＡＬと略記) 学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法。

※本研究では、「教えて考える授業」という視点で、教師から分かりやすく教えることを重点とした上で理解確認や理解深化でＡＬ的な活動を入れることとする。

イ　指導略案をもち寄り、効果的な支援について検討。以下に３事例の成果（要約）を抽出し表記する。○成果●課題（抜粋）

〈授業１（社会)〉
基礎基本的な知識を、工夫して分かりやすく伝え、思考やコミュニケーションの共通基盤をつくり、授業全体として深い理解を伴った習得を目指した授業

○五感に働き掛ける教材、思わず夢中になるエンターテイメント性の高い活動、視覚教材や書く作業の精選で、生徒の興味関心を引き出し、不安感を軽減した。

○考えたり、自分の考えを表現したりする活動を個、ペア、全体と徐々に広げることで、考えを深めることができた。

●教材の準備に時間を要する。

〈授業２（3年国語表現)〉
これまでに習得した知識（概念)・技能を活用して、まだ定まった「正しい答え」のない問題を教師の指導・支援の下で探求させた授業

○身近な問題をテーマに、複数の単元（「ブレーンストーミング」「レポート」「プレゼンテーション」) を系統的に組み立てたことにより、どの活動でも具体的な問題意識をもち意欲的に取り組むことができた。

○互いに苦手な活動や得意な活動を認識し合い、助け合うことが求められ、自他を理解するきっかけになった。

●公欠や実習をはさんだり、活動内容によって参加が難しかったりして、全員の授業の進度を揃えにくく、特にハイレベルの生徒に注意が行き届かない。

〈授業３（英語)〉
日本語で英語を理解するのではなく、英語でのやりとりを通して言葉の意味を知り、より実践的な英語力を育む授業

○授業内で繰り返し同じ表現を使い、応用することで、生徒が指示された内容を推測することができた。

○分からない単語は英語でヒントを出すことにより、生徒同士で考え、導き出すことができた。

●家庭学習へのつなげ方、既習文法のアウトプット。

〈自立活動グループ２年間のまとめ〉

授業の中で生徒が「わかった」「できた」と実感するために必要なステップは、①授業への参加、②教示を理解、③各自のやり方で会得、の３段階である。そこには生徒自身のメタ認知が現れ、自己や他者への理解が深まる必要がある。これらを引き出すために必要な教師側のステップは、①環境整備、②分かりやすい教示、③情報共有・協働的な授業改善、の３段階であることを実践し確認した。

生徒が、活動の要素「話す」「聞く」「読む」「書く」のどの部分を苦手とし、あるいは得意としているのか、１つの授業や教科では教師側が見落としていることも多く、教科間の情報共有は欠かせない。個々のラーニングスタイルを把握して個別に対応することが理想である。しかし、今回詳細に考察したように、環境や授業づくりの工夫を繰り返すことで、どの生徒も安心して授業に参加でき、どの生徒にも効果的に理解を促すことが可能になる。

教師が協働的に考察・改善し続けることで、生徒の学びが充実し、進路実現に迫ることができたと考える。

（２）作業学習グループ

作業学習では、班ごとの作業種目に伴う特質がそれぞれ異なる。全班共通の目標は「進路実現」であるが、指導に当たっては、班集団としての特色を生かしながら個々の課題にアプローチすることになり、所属する班によって指導の重点が変わる。

１年次は、７班すべての授業研究を通して、それぞれの課題点を共有し、「各作業班で身につけたいキャリア発達能力と作業能力」表（以下「作業能力表」と表記）を作成した。（資料１）

２年次は、それぞれの班における生徒の充実感や達成感に注目し、昨年度確認した支援の妥当性を検証した。また、指導目標と評価、個人目標と自己評価を適切なものにするために、全体計画を見直し、作業班全体でより協働的に取り組むための方策について検討した。

〈１年次〉全７班の事例検討､課題の洗い出し､「作業能力表」作成。○成果●課題（抜粋）

ア　実践事例検討①　（農耕・環境・木工）

●読み書きを苦手とする生徒のために、日誌の様式の工夫、全作業班の指標となるものが必要である。

実践事例検討②　（陶芸・リサイクル）

●製品への工夫（販促の観点・他班とのコラボ）、環境の整備。

実践事例検討③　（縫製・調理）

●工程が多くて分かりにくい→○「作業工程表と記録表」を用いて作業の拡幅化実現。

イ　「作業能力表」（資料１）

ウ　１年次の成果○と課題●（抜粋）

○日頃の授業を見直し、班ごとの課題を明確にして、新たに取り組むべき視点をもつことができた。

○「作業能力表」を作成し指導の根拠を明示した。

●生徒が抱える課題に即して支援できるよう、「作業能力表」の検証を進める。

〈２年次〉

ア　班ごとの検証から、生徒の望ましい変容を引き出す有効な支援方法○と課題●を抽出（抜粋）

（ア）目標の扱い

○作業朝礼と作業終礼で、個々の目標と達成度を確認。個々の目標を発表したり掲示したりすることで、生徒教師相互に目標を意識し取り組むことができる。自己評価が教師からの評価とかけ離れることが減った。

○作業日誌で前時との連続性や目標値等を把握できる。

●「表情」「声量」「集中」などの目標は生徒の自己評価が難しく、「注意をされた回数」のような評価方法も試みられたが（資料３）、今後も工夫が必要である。

（イ）知識技能の習得（班ごとの特色を生かした多様なアプローチ）

○検定試験（資料２）・・・正しい作業工程、適切なスピード、精度等の項目について試験の試験。合格した生徒に名札や認定証を渡すことにより生徒の意欲が高まった。

○チェック表（資料３）・・・作業工程ごとに教師の確認を求める、重量・数値など作業量で成果を表す、など。教師・仲間から採点を受け、評価を可視化することにより、精度や到達度が明確になり、生徒自身が自己評価を適切に行えるようになってきた。

（ウ）興味・関心

○陶器の歴史、釉薬の名前などの学習を、実際の作業と結び付け、興味を喚起した。

○自分や仲間の製作品の仕上がりを見合ったり、お客様からの声を班で共有したりする。

●日々の観察でどの生徒にも確かな向上を認められるものの、明確な評価基準がない。

イ　系統性の確認①教師の班間交流

それぞれの班の有効な支援を共有するため、職員が担当の班間で交流して体験し、所見を班全体で共有した。

所見（有効と感じた支援の手立て）抜粋 ○今日の仕事内容と目標提示の方法　○班全体の作業内容を可視化した掲示物 ○ミーティングのもち方（目標提示、役割分担、今日のポイント等） ○道具の管理、棚や保管場所の工夫 ○生徒の様子（指示の理解、準備など主体的な行動、教え合いなど）

ウ　系統性の確認②作業学習全体計画の見直し（資料４）

○全体目標から各班目標、個人目標へとつながるよう、作業班全体の系統性を確認した。

○生徒が目標を意識するために有効なツールとして、作業日誌の様式について検討した。（資料５）班ごとの特性やねらいの違いから、全てを共通の様式にする必然性は薄いが、進路実現のためには、決まりに沿って活動する姿勢も求められることから、引き続き全班共通の作業日誌を使用することを確認した。

○適切な自己評価を行い、客観的評価を受容するためのツールとして、ベーシックチェックルーブリック（基礎基本の評価規準）（資料６）を作成した。

●目標を意識しつつ、作業時間を圧迫しないような作業日誌の様式については、更に検討が必要である。

●ベーシックチェックルーブリックは生徒が使いこなすまで時間がかかる。また文言の整理や生徒個々の課題に沿った項目の選択の仕方など、使用を軌道に乗せるまでもう少し時間をかけたい。

〈作業学習グループ２年間のまとめ〉

各班の特色を生かしながら、生徒の望ましい変容を引き出す具体的かつ適切な支援方法について検証した。作業学習のねらい（１）「働くために必要な知識・技能・態度を育成する」のうち「知識」「技能」に対しては、技術検定、数値目標やチェックシート、評価表などで、生徒教師ともに目に見える形で成果を確認できるような評価方法の工夫と、それに伴う形での生徒の変容がみられた。「態度」に関しては、適切な自己評価を促すルーブリックを示した。

２年間の実践研究を振り返り、以下３点の課題を整理した。今後、改善・検討を重ねたい。

①作業班全体計画を、作業日誌とも連動させて、全体目標から各班目標、個人目標へとつながる系統性を、教師生徒双方で意識できるようにすること。

②目標と評価を適切に扱うために、全班共通の評価指標（ルーブリック）を整え活用すること。

③目標や指標の文言を精査し、生徒が活用しやすい形を探ること。

5　成果と課題

（１）２年間の成果

自立活動グループでは、昨年度までに自立活動の基本的な授業展開を通年で一律にし、生徒が安心して集団に参加したり自発的な行動調整を行ったりして、学習に向かう姿勢を引き出した。今年度は研究対象授業を各教科に広げ、生徒自身の気付きを引き出し、学びを深めるような支援のあり方を共有した。

作業学習グループでは、１年次に作成した「作業能力表」をもとに、生徒の達成感につながる有効な支援方法を共有し、その系統性を作業班全体計画で確認した。

自立活動グループと作業学習グループとは、教育課程が異なり、日常の関わりも少ない。しかし、高等部生徒の希望進路を実現させるために必要な思考力・判断力・表現力は、授業での達成感を重ねて育まれるもの、また自ら気付き学ぶことは、卒業後の主体的な社会参加への力になるという共通認識から、同じテーマをもって研究に取り組んだ。両グループとも、適切な支援や生徒同士の関わりの中から、生徒が自ら多くのことを発見し、学びを深めていく様子をみることができた。

（２）２年間の課題

教科における観点別評価のあり方、作業学習における客観的評価方法については、継続して検討していく必要がある。

資料１　作業能力表（一部）

作業班で身につけたいキャリア発達能力と作業能力（　　リサイクル　班）

指導の実際において該当する場合は○

総合生活力			指導内容
健康・体力	基本的生活習慣の確立	○	あいさつ、返事、報告・連絡・相談
	健康の増進		
	体力の向上		
	食生活		
	整容・身だしなみ	○	手洗い、朝礼時の整容チェック
豊かな人間性	友人関係能力		
	相手を思いやる心	○	終わっていない仕事を手伝う
	性差		
	人間関係調整能力（コミュニケーション）	○	報告・連絡・相談の徹底、あいさつ
	チームワーク	○	紙工・羊毛の流れ作業、製品作り
	社会性		
	適応力	○	色々な作業内容を行う
	倫理観		
	善悪の判断		
	規範意識		
	我慢強さ	○	一定時間同じ作業に取り組む、水の冷たさ
	道徳心		
	自己理解	○	日誌記入、困った時の相談、発表
	自己肯定感	○	製品作り、販売、終礼時の発表での賞賛
	向上心	○	きれいな仕上がりを目指して作業に取り組む、出来高表
	自己アピール力		
	自主性	○	準備・片付け、報告・連絡・相談
	ボランティア精神		
	忍耐力（ストレスコントロール）	○	同じ作業を続ける、人にあたらない、適度な休憩
	自立心（セルフコントロール）		適度な休憩、作業を楽しむ
	行動力		
	他者の考えや個性の尊重		
	チームの一員としての役割遂行	○	流れ作業

資料２①　各種検定１

紙ちぎり　検定表　名前

		準備物	写真	検定チェック欄	
準備	①	ちぎる前の紙を入れるかご			
	②	ちぎった紙を入れるかご			
	③	自分のちぎる目安の量の紙をケースに入れる。			
	④	タイマー（10分セット）			
	④	準備ができたら先生に報告する			
作業	①	紙を細かくちぎり、ケースに入れる。			
	②	紙をすべてちぎり終えたら、隣りの先生に報告する。			
	①	ちぎった紙の重さを量る。			
	②	裏面に重さを記入し、報告する。			
自分の課題	①				
	②				

資料２②　各種検定２

※仲間の検定の様子を見て、良い点や課題点を探そう。

清掃検定　（受検者名　　）

	机拭き	自在ほうき	床拭き	雑巾
良い点				
課題点				
その他				

（受検者名　　）

	机拭き	自在ほうき	床拭き	雑巾
良い点				
課題点				
その他				

資料２③　各種検定３

環境班　検定

名前

○机拭き　判定

ポイント		初級		中級	上級	
①四つ折り、八つ折りができる。	0	1	2	3	4	5
②正しい持ち方でタオルが持てる。	0	1	2	3	4	5
③拭く順番が分かる。	0	1	2	3	4	5
④拭き残しがない。	0	1	2	3	4	5
⑤角を拭くことができる。	0	1	2	3	4	5
⑥最終点検ができる。	0	1	2	3	4	5

○自在ぼうき（床）　判定

ポイント		初級		中級	上級	
①必要な道具類を準備できる。	0	1	2	3	4	5
②進む方向が分かる。	0	1	2	3	4	5
③ゴミを広げずに集めることができる。	0	1	2	3	4	5
④掃き残しがない。	0	1	2	3	4	5
⑤すみずみまで掃くことができる。	0	1	2	3	4	5
⑥集めたゴミを回収できる。	0	1	2	3	4	5
⑦最終点検ができる。	0	1	2	3	4	5

○床拭き　判定

ポイント		初級		中級	上級	
①四つ折り、八つ折りができる。	0	1	2	3	4	5
②正しい持ち方でタオルが持てる。	0	1	2	3	4	5
③拭く順番が分かる。	0	1	2	3	4	5
④拭き残しがない。	0	1	2	3	4	5
⑤すみずみまで拭くことができる。	0	1	2	3	4	5
⑥最終点検ができる。	0	1	2	3	4	5

資料３　チェック表、注意をされた回数部分

作業報告・ふりかえり チェックシート　No.

日付	月　日　曜日　天気		
項目	切り方　加工　面取り　やすり 磨き　組み立て　焼き　仕上げ		
評価	A 良い　B 普通　C もう少し　D ミス		
	態度（声・言葉遣い・姿勢）	仕上がり（正確性・下準備・スピード）	備考
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価			

＜評　＞				
身だしなみ	□	□	正確性（せいかくせい）	□ □
挨拶（あいさつ）、返事（へんじ）	□	□	安全性（あんぜんせい）	□ □
			準備・あとかたづけ	□ □

資料５　作業日誌

月　日　曜日	天気	
目標	作業面：	評価
	態度面：	評価

ベーシックチェック

感心・意欲・態度	/15	知識・理解・技能	/15	思考・判断・表現	/15
時間		道具		質問・報告	
服装　準備物		作業の名前　方法		判断	
挨拶　返事　言葉遣い		指示		協力	

今日の反省

作業内容	

よかったこと・できるようになったこと

難しかったこと・注意されたこと　次時の目標

先　生　か　ら

＜よかったこと＞	＜次に頑張ること＞

資料４　全体計画（一部）

【作業学習全体計画】

作業学習のねらい

(1) 作業学習をとおして、**働くため**に必要な**知識・技能・態度・姿勢**の育成を図る。

(2) 参加する喜びや成就感を味わい、働く意欲を高められるようにする。

(3) 生徒が共同で取り組むことにより、役割意識を持ち、進んで取り組むことができるようにする。

学校教育目標「清く　明るく　たくましく」
○自分のよさに気づき，自己実現のための向上心を持ちつづける人
○ほかの人を思いやるやさしい気持ちを持つ人
○心と身体の健康を大切にする人

高等部段階のキャリア教育目標
社会生活能力の確立と、自己選択・決定能力の育成
- 生活を豊かにするための基礎的な知識・技術・態度を身につける。
- 作業能力や主体的に働く力を育てる。
- 社会生活に必要な力を育てる。
- 自己選択、自己決定力を育てる。
- 社会に貢献できる力を育てる。

作業班一覧

	特性/身につけさせたい力	目標
調理班	・衛生面、安全面への配慮（身支度、調理場の準備・片付け、調理器具の使い方） ・対応力、判断力の育成（様々な調理活動、毎回異なる状況、販売等） ・見通しを持つ、思考力、協力（毎回時間内に料理を完成させて、販売や提供を行う）	①衛生面と安全面を意識し、清潔に安全に調理に取り組むことができる。 ②お客様のことを意識しながら、丁寧に製品作りに取り組むことができる。 ③自分のするべきことを考えながら、仲間と協力して、自分たちで進めることができる。
木工班	道具や電動機械の使い方、作業環境適応力（騒音・木くずや埃など）、集中力、持続力、安全性、判断力、報告、相談ができる　等	①道具や電動機械の正しい使い方を身につけ、安全に丁寧に作業することができる。 ②自分から報告、相談することができる。 ③仲間と協力して、お客さんに喜んでもらえる製品をつくる。
環境班	清掃技術の定着（基礎）、チームによる清掃（応用）、接客サービスの理解と実践、臨機応変、問題解決、コミュニケーション、外部清掃、達成感、思考力、判断力、実践力。	①清掃器具や機械の正しい使い方を身に付け、清掃箇所や汚れに応じた清掃を主体的に進めることができる。 ②共同（協働）で作業に取り組むことを通して、目的を達成する責任感や喜びを知り，問題解決に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 ③接客精神を理解し、実践することを通して社会性を高める。
農耕班	・自然現象を身近に感じ、適応できる判断力や力	自然に親しみ、農作物を育てる喜びを感じ、農業における基本的な心構え

資料６　ベーシックチェックルーブリック（一部）

ベーシックチェック　ルーブリック

	感心・意欲・態度	知識・理解・技能	思考・判断・表現	
	時間	**道具**	**質問・確認・判断**	
5	工夫して効率良く作業した。	丁寧に扱い、適切に使える。	自分で工夫したことを確認して行動した。	5
4	時間を守り、時間いっぱい集中して作業した。	適切に使える。	分かっていることを確認して行動した。	4
3	時間を守り、促されながら作業した。	名前と使い方が分かった。	分からないことを質問した。 分かっていることを質問した。	3
2	時間を守った。	名前が分かった。	初めてのことを自己判断して行い成功した。	2
1	遅れたり自己判断で休憩したりした。	名前が分からない。使い方が分からない。	分からないことをそのままにしていた。自己判断をしてミスをした。	1
	準備物	**作業の名前　方法**	**・報告**	
5	必要と思われる物を見通し自分で準備した。	準備から片付けまで主体的にできた。	報告をして、次の指示について自分の考えを相談した。	5
4	必要な物を自分で準備した。	促されて準備や片付けができた。	適切に報告した。	4
3	促されて準備した。	促されて作業した。	促されて報告した。 必要以上に報告した。	3
2	手伝ってもらって準備した。	作業名や方法が分かった。	報告を忘れた。	2
1	忘れ物をした。	作業名や方法が分からない。	報告しなかった。	1
	服装	**指示**	**協力**	
5	清潔な作業着を正しく着た。	大事なことを聞き逃さないようメモを取りながら聞き、指示どおり時間内に作業した。	仲間の良さを活かし、チーム全体で協力した。	5